

福井市コミュニティバス試行事業の経緯と評価

福井大学 大学院 学生会員 佐野 正

福井大学 工学部 正会員 川上 洋司

1.はじめに

現在全国各地において、固有の地域的交通課題に柔軟に対応すること、そしてその実施効果をより確実なものにすることをねらいとして、様々な試行実験事業が行われている。本論では、H.11 年に実施された福井市コミュニティバス試行事業の経緯とその評価の紹介を通して、新しいバスサービスとしてのコミュニティバスの可能性と試行事業の意義について考察する。

2.試行事業の経緯と概要

福井市コミュニティバス試行事業は、H.9 年度福井商工会議所に設置された公共交通推進専門部会による提言を出発点とする。民間団体による発案であること、そして試行事業の主体的実施を前提とした提言であったところにひとつの特徴がある。こうした動きに続いて、H.10 年度バス協会が関係機関をメンバーとする「バス輸送改善推進研究委員会」を組織し、バス活性化に向けての幅広い検討がなされた。この中で、商工会議所専門部会の提案が正式に活性化策として位置付けられ、その第一歩として、H.11 年度コミュニティバス試行事業が福井市において実施される運びとなった。実施においては商工会議所が中心となり、関連行政機関、商店街及び住民代表者、バス事業者等からなる連絡協議会を組織し、実施企画案のみならず、PR 方法、評価のための調査・分析内容等についても入念な検討がなされた。こうした経緯を経て、H.11 年 8 月 2 日から約 2 ヶ月にわたってコミュニティバス「すまいる」の試行実験が行われた。

その概要は表 1 に示すとおりであるが、移動制約者へのモビリティ提供に加えて、中心市街地への集客効果、新たなバス需要の発掘をねらいとしたところに一つの特徴がある。

表 1 実施概要

実施主体	商工会議所・（社）福井県バス協会	車両形式	マイクロバス
運行主体	京福バス株式会社	乗車定員	29 人
運行形態	一方向循環型	路線長	約 6.5 km
運行本数	23 本/日・30 分毎運行	運賃	100 円

3.試行事業に対する評価

評価にあたっては、利用者数や乗降 OD 調査、利用者アンケート調査に加えて、沿線地区住民調査を実施し多面的に行うとともに、こうした調査の実施と結果のマスコミを通したフィードバックにより、バス問題への関心の向上といった啓発効果をもねらいとした。まず利用者数についてみると、期間全

体で 1 便あたり 12.1 人（1 日 23 便、定員 29 人）の実績をあげ、中心部とその周辺住宅地間には木目細かな良質のバスサービスに対する需要が確実にあることを実証した。加えて、利用者の属性を見ると移動制約者が過半数を占め、そうした層にとっ

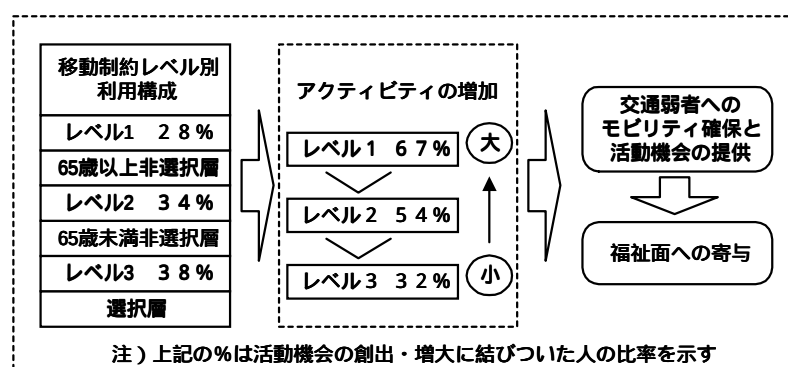


図 1 属性別利用者構成と活動機会への影響

キーワード：コミュニティバス、試行事業

連絡先：福井大学 工学部 建築建設工学科 TEL：0776 - 27 - 8608、E-mail：e990859@icpc00.icpc.fukui-u.ac.jp

て新たな移動サービスの提供が活動機会の創出・拡大を促すこと、さらには利用者の大半が中心部に起終点を持つことから、中心部への集客効果をもつことが明らかにされた。こうしたことは、車社会の中で見過ごされていたか、あるいは敢えて取り上げられなかった点ともいえ、それを地域住民に明確に示したという点で試行事業の効果は大きかったといえる。また、試行事業の効果は、利用者といった直接受益者のみならず、沿線の非利用者層に対しても送迎の軽減等による便益をもたらすとともに、公共交通問題への関心を高めることにも結びついた。これらの結果は、マスコミを通して地域の関心を高めることになり、本格導入へのニーズの高まりへと結びつくこととなった。

4. 試行事業後の経過

試行事業は予定通り2ヶ月で終了したが、その利用実績、評価の結果を受け、約1ヶ月半後の11月19日から年末まで、中心部の8商店街・大型店2店舗とバス事業者の主催で再開されることになった。この間の利用実績は1便あたり12.7人と微増し、ほぼ利用が定着したことが裏付けられた。これを受けて、引き続き1月2日からは、福井市がバス事業者と共同で運行するという体制（この間の利用実績は1便あたり約14.7人に増大）に移行し、さらに4月1日からは福井まちづくり会社（TMO）の設立とともに、その事業の一貫として本格運行（運送法第4条）という運びとなる。民間団体である商工会議所による試行事業が出発点となり、商店街を中心とする地元団体、そして地元行政がつなぎ、準備期間は別にしてわずか半年あまりで、TMOというまったく新しい組織が本格運行するという経緯はこれまでに例のないケースといえよう。

5. おわりに

本論では福井市において実施されたコミュニティバス試行事業の経緯と評価を紹介したが、その中で明らかにされた主要な点を上げると以下のようなになる。福井市という全国有数の車依存型社会の中でも、新しいバスサービスに対する潜在需要が確実に存在し、その移動サービスの提供が活動の創出や・拡大に結びつくといった効果をもつこと、そして試行事業はその実施プロセスの中で住民の関心、参加を促す機能を十分に持ち、新たな試みを効果的に実施する有用なツールとなりうるということが明らかにされたこと等である。

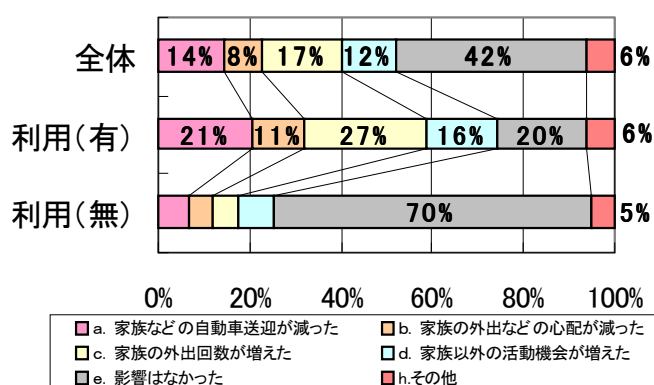


図2 沿線住民の効果意識（利用有無別）

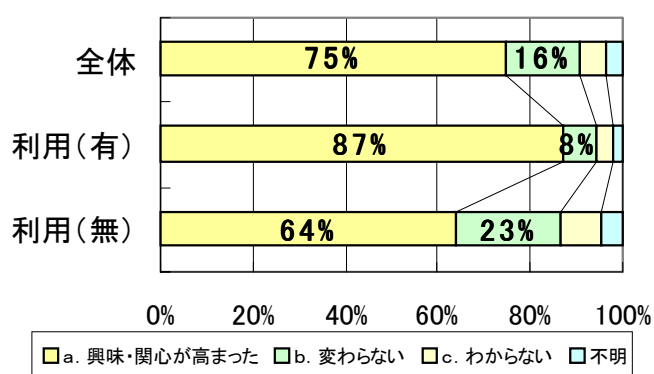


図3 公共交通に対する関心度の変化（利用有無別）

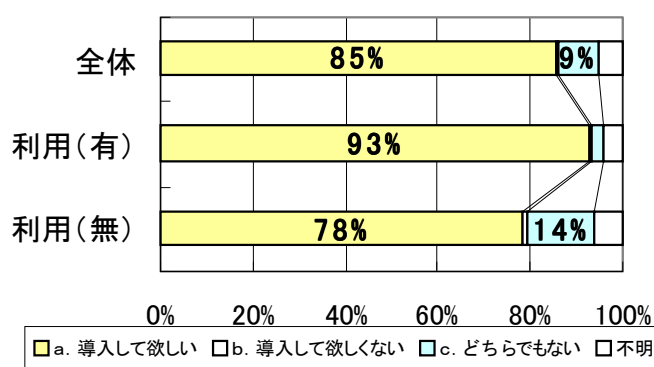


図4 本格導入に対する要望（利用有無別）